



へ 13 特
2937
5

春色戀凍分解二編巻之中

江戸

臈月亭有人著



第九回

住まりまぬり今いまのまぢぢぢぢのやま里らみみ身みをかままささきき宿やどのあ
 ててむむとと業わざ平ひら朝あさ居いのゆ泳うとと飲ののまううゆゆぬぬううふふ屋や第だのな
 丸まる木きのはしら柱しら花はなのやま家やま根ねりりびびせせたた小こ家やよよ唯ただひひととるるるる被ま方かたをを
 打うち茶ちや下げ拍はくおおのの一いち門かどははみみ「まモもちちととののううおおああちちたたううこことと
 いいままはは「まイい何なに更さらののををああせせたたままをを「まイい私わたしハハ玉たま川のの光ひかり

清めあたるもせむきなるハ「是れをよめておんががせうま
せむき一且死のめと名りしは死をあらむも助うて死ねるも
たす今の身のうもも昔君のほ後まがあらぬ時ハお例
をたけま川の藤原とあるとせめては世のまひ中と毎年の先悟
でまうまうこそま条の法うは死の曇り晴まらぬやうみなり
ませうをうまも木町へおゆりふきのほしう「程の更我
経一ツをのたまやう」と名づるをある人のまをさち子心
あぐろ不自由よむむがんで育とううとまをッううがま条の

清りどうぞ煮くか比りあまうて流石昔君の流石と誉らる
中うふお言ひあたまて下まはし「又ちわひひゆ」とその時ハ一ツ
登んのは回向と昔君のほうううけるのが千石万石お増ッとは
昔君かまの心ト云まをカありくは法をえ送らるる
ふや希も流たふ細くあらうまどりののりでもあて附ハ
ゆるぐ悔むもせんあくとえ人ぐまふ附海おけハ川のほへ
とづくあぞ叔とあぐろま声まがう「ライは後人」味
かすまハ「コヤ昔君ハ且始」垣根の外でのうまハどう



みどろ出ー 杉浦場の忠六より又茶入の給
は此の度おまを紙着りかゝ忠六と
坂と親一宛中ふある事主家の坊方由け者お
二もあると粗糸せー 又けりあをまろく
出るせー 小務間様もて退るた存け出さる
まづめんとほし 方小綱ひく舟も助らと又あぐのうた
目ふおひ屋本て又習家お身をあらあゆめせ
人おの二八の月おあそこの後ゆきも初まざるよ

茶入

ちんちんおまへら
はい忠六ハお出がたうあるとらひあー てもはんお
下云せんとお出入りまがた夕方と人お給
後物と調とこのおののぼりかゝりて
もたふ洞お替なるうやあて
よそれ
「史つたど若君とまへらうんそんるふとあの中おまを
おのどと船渡ふううまぬひんあつたせお給
貞女の境まふつりても茶入の物先合あがのねと
よがまろ智らしたかけ方の為度物りまがまろ後て



ま〜おききんま〜^{うね} 顔つたぐらう〜^{うら} ぎぬま〜^{うら} ぎぬま〜^{うら} ぎぬま〜^{うら}
 をはるま〜^{うら} ぎぬま〜^{うら} ぎぬま〜^{うら} ぎぬま〜^{うら} ぎぬま〜^{うら}
 う〜^{うら} ぎぬま〜^{うら} ぎぬま〜^{うら} ぎぬま〜^{うら} ぎぬま〜^{うら}
 めんあ〜^{うら} ぎぬま〜^{うら} ぎぬま〜^{うら} ぎぬま〜^{うら} ぎぬま〜^{うら}
 せんか服残か喰〜^{うら} ま〜^{うら} ぎぬま〜^{うら} ぎぬま〜^{うら} ぎぬま〜^{うら}
 ま子^{うら} よく知〜^{うら} めま子^{うら} 一^{うら} ま〜^{うら} ぎぬま〜^{うら} ぎぬま〜^{うら}
 とは^{うら} ぎぬま〜^{うら} ぎぬま〜^{うら} ぎぬま〜^{うら} ぎぬま〜^{うら} ぎぬま〜^{うら}
 云〜^{うら} ぎぬま〜^{うら} ぎぬま〜^{うら} ぎぬま〜^{うら} ぎぬま〜^{うら} ぎぬま〜^{うら}

てもおらんまん〜^{うら} 限〜^{うら} と〜^{うら} ぎぬま〜^{うら} ぎぬま〜^{うら} ぎぬま〜^{うら}
 りんさま^{うら} ぎぬま〜^{うら} ぎぬま〜^{うら} ぎぬま〜^{うら} ぎぬま〜^{うら} ぎぬま〜^{うら}
 ねぢ^{うら} ぎぬま〜^{うら} ぎぬま〜^{うら} ぎぬま〜^{うら} ぎぬま〜^{うら} ぎぬま〜^{うら}
 まりの^{うら} ぎぬま〜^{うら} ぎぬま〜^{うら} ぎぬま〜^{うら} ぎぬま〜^{うら} ぎぬま〜^{うら}
 ともお出あん〜^{うら}
 是より^{うら} ぎぬま〜^{うら} ぎぬま〜^{うら} ぎぬま〜^{うら} ぎぬま〜^{うら} ぎぬま〜^{うら}
 みて^{うら} ぎぬま〜^{うら} ぎぬま〜^{うら} ぎぬま〜^{うら} ぎぬま〜^{うら} ぎぬま〜^{うら}
 一^{うら} ぎぬま〜^{うら} ぎぬま〜^{うら} ぎぬま〜^{うら} ぎぬま〜^{うら} ぎぬま〜^{うら}

碗わんであぐらあぐらッ志し申まをるノアヲアヲ子こ休しゆさんさんく
一一返へんりりハハツツ入いりりヨヨキキリリくくおお左さあんあんーーヨヨララ引引
アアちちああいいとと和わのの産う後ごへへ性じやうッッくく子こ糸いと川がわををんんみみささうう
去いッッてて後ごををぎぎーーのの紋もんののつつつつ茶ちや碗わんとと箸しやう紙し拵ぢゆうッッくく
来きくくらんらんるるまましし一一ととままりりののんんぎぎららまま子こおおままををんん
ゆゆももままけけままふふちちののおおののけけままんんーーヲヲヤヤくくもも琴こ
たんたんがが大おほききくくゆゆるるままーーののけけままんんのの中ちゆうああんんそそののああッッ
志し申まをるるああのの方かたががななままうう子こ被かががままんんよりより改かへさんさんのの

茶ちや碗わんでもでもささりりみみおおんんああままんん一一ツツああままいいびびだだッッ一一船せん目め
佐さとと海うみ濱はまのの初はつ會あひみみででここいいででせせヨヨかかささううどどんんががヤヤンンままああ
是こゝとと比ひ核かく坂さか人ひと性じやう志しッッたんたんどどががちちののけけままんんののけけままんんののああままづづののりりどど
有あッッままののてて後ごををままッッてておおままままののどどううももととつつひひてておおんん
免めん一一をを智ちりりああわわままののんんるるみみもも被かッッままととののひひああまままま
ううははははのの初はつ會あひみみででここいいででせせヨヨかかささううどどんんががヤヤンンままああ
産う後ごとと明あきららんらんででままヨヨささううままるるとと腹はらををままッッてて茶ちや碗わんもも
徳とく利りももらんらんるるここいいととくくああままッッててままヨヨああががみみくくッッてて

ちり例ことまりなりなとな「そと見えあまま」
今いまの口のくち下あうううなな様やまさまののの紙は「是こののけ
ののうちぢやありままんんハハ「ゆゆのの加減かおおああまま」
更さらよよりのの物もの「ががあるあるととららいいままうう」がが更さらいいどどううああままはは」
糸いと「ささりりハハささつつををりり忘われれそそ居いりり「アア、おお金金ををんんがが子こをを
おお持持由よううががままままままううららいいををももじじ世よ人にああららいいととららひひるる
ままははううハハ「ヲヲヤヤちち物ものででままううささううおおひひままるるががよよううがが
ままををおお金金ををんんハハ私わたしのの中ちゆうるる角かくのの所ところとと違ちがつつててららいいとと

おああんんるるななるるううちちのの精せいゆゆ「おおええななまま」かかのの人ひと
ああんんぞぞのの神かみささりりぐぐわわたたててままじじ「おおまままままままま」アアそのその
勢いきほりりああままのの初はつ會ごををううぎぎままんんららいいららいいそそ精せいゆゆををまま
ままハハ「たたととふふまま人ひと初はつ會ごひひよりよりがが鬼おにふふせせととららいいままがが
ままままららううささううををももあありりままるるんんハハ人ひと由よしるるふふああるる人ひと由よしののここハハ
ええんんるる初はつ會ごががままんんののまま「ささゆゆあありりまま」くく終はつららふふ
うちうち深ふかみみのの外そとよりより中ちゆうぢぢんんがが「糸いとををままんんちちよよののとと
糸いと「糸いとががままままととササ「ああままううああららああつつららいいををももああてて

